

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
基礎看護学実習Ⅰ	1（45）	1	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
病院の構造と、患者に関わる看護師および多職種の役割を知る				
実習目標				
1. 患者の療養生活を支える病院の構造と病院を訪れる対象について知る。 2. 病院で働く看護師と多職種について知る。 3. 相手を尊重した態度がとれる。				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考				

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
基礎看護学実習Ⅱ	1（45）	1	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
基本的な日常生活援助を通して、入院生活を送る対象を理解する。				
実習目標				
1. 入院生活を送る対象の日常生活行動を観察し、基本的欲求の状況が理解できる。 2. 日常生活援助の実際から入院生活を送る対象について理解できる。 3. 看護者としての基本的姿勢がとれる。				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考				

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
基礎看護学実習Ⅲ	1（90）	2	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
入院生活を送る対象の基本的欲求（ニーズ）を理解し、充足に向けた日常生活の援助ができる。				
実習目標				
1. 対象の基本的欲求（ニーズ）の充足状況が理解できる。 2. 対象の援助計画が立案できる。 3. 立案した看護計画に基づき、日常生活援助が実施できる。 4. 実践した援助を通して対象の反応や状態について評価することができる 5. 看護師として必要な基本的姿勢がとれる。				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：看護学概論 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護論実習	2（90）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>地域で生活する対象とその家族を理解し、対象の生活に応じた援助を実践する能力を養い、多職種と協同する中での看護の役割を理解する。地域で生活する人々の健康の保持・増進への保健活動を学ぶ</p>				
実習目標				
<p>【介護老人施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設を利用する対象とその家族が理解できる。 2. 施設で生活する対象の自立のための援助が理解できる。 3. 老年期にある対象に対して尊重した態度がとれる。 4. 施設を利用する対象とその家族の生活を支える保健・医療・福祉サービスの実際が理解できる。 <p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する対象（療養者と家族）が理解できる。 2. 在宅で療養する対象（療養者と家族）に応じた訪問看護の実際が理解できる。 3. 地域で看取る家族への支援について理解できる 4. 訪問者としてのマナーを守り、対象（療養者と家族）に対して尊重した態度がとれる。 5. 在宅療養に必要な社会資源の活用と地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際が理解できる。 <p>【児童館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童館を利用する対象が理解できる。 2. 地域での子育て支援事業の実際が理解できる。 <p>【入退院支援センター】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入退院支援センターの役割が理解できる。 2. 入退院支援センターで行われている活動の実際が理解できる。 3. 入退院支援センターにおける保健・医療・福祉に関わる機関や職種との連携・協働の実際が理解できる。 4. 入退院支援における看護師の役割を考えることができる。 <p>【墨染まちとくらしセンター】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する対象の健康の保持・増進にむけた支援事業の実際が理解できる。 <p>【公開講座】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する対象への健康の保持・増進にむけた支援事業の実際が理解できる 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
成人老年看護学実習Ⅰ	2（90）	2	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>成人老年急性期にある対象を理解し、身体症状の変化の観察、症状・治療・処置に伴う苦痛の緩和ができ、回復過程に応じた日常生活自立へむけた援助ができる。</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人老年急性期にある対象が理解できる。 2. 成人老年急性期にある対象の生命維持に必要な治療・処置が理解できる。 3. 臨床判断モデルに基づき、成人老年急性期にある対象の状況に合わせた看護ができる。 4. 成人老年急性期における対象の回復過程に応じた日常生活援助ができる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：成人看護学概論・老年看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
成人老年看護学実習Ⅱ	2（90）	2	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>成人老年慢性期にある対象を理解し、再発及び悪化防止に向けた援助や生活機能の維持・回復・向上に向けたセルフケア行動・日常生活援助が実践できる。</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人老年慢性期にある対象が理解できる。 2. 成人老年慢性期にある対象の疾患や症状の再発及び悪化防止に向けた援助ができる。 3. 成人老年慢性期にある対象の疾患・症状コントロールに必要な援助ができる。 4. 成人老年慢性期にある対象の生活機能を維持・向上するセルフケア行動の支援ができる。 5. 成人老年期にある対象を支える社会資源と多職種連携が理解できる。 6. 成人老年慢性期にある対象に対して尊重した態度がとれる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：成人看護学概論・老年看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
成人老年看護学実習Ⅲ	2（90）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>成人老年周手術期にある対象を理解し、手術療法が対象に与える影響から術後合併症の予防と回復・適応に向けた援助ができる。</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人老年周手術期にある対象が理解できる。 2. 対象が心身共に良好な状態で手術に臨める援助が理解できる。 3. 術中看護について考えることができる。 4. 術直後・術後の対象に必要な援助が実施できる。 5. 合併症を予防し術後回復・適応に向けた援助ができる。 6. 身体症状の変化の観察、症状・治療・処置に伴う苦痛の緩和ができ、回復過程に応じた日常生活自立に向けた援助ができる。 7. 成人老年周手術期にある対象を取り巻く医療チームを理解できる。 8. 成人老年周手術期にある対象の家族を支える援助が理解できる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：成人看護学概論・老年看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
成人老年看護学実習Ⅳ	2（90）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
成人老年終末期にある対象を理解し、対象の苦痛を緩和し、QOLを考えた援助が理解できる。				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人老年終末期にある対象が理解できる。 2. 成人老年終末期にある対象の全人的苦痛について理解できる。 3. 成人老年終末期にある対象の苦痛を緩和するための援助ができる。 4. 成人老年終末期にある対象のキーパーソンや家族への支援の必要性が理解できる。 5. 成人老年終末期にある対象に対して尊重した態度がとれる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：成人看護学概論・老年看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
小児看護学実習	2（90）	2	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>小児各期の対象に対し、成長発達と健康レベルの経過に即した援助の必要性を理解し、看護を 実践する能力を養う。</p>				
実習目標				
<p>【保育園】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康な小児と接し年齢に応じた成長発達の特徴を理解できる。 保育に参加し、小児の成長発達を助長するための保育の実際を理解する。 <p>【小児外来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 小児期における特有な症状をもつ対象を理解できる。 小児期における対象の健康状態および成長発達に応じた援助を理解できる。 小児看護に必要な看護技術を理解できる。 <p>【重症心身障がい児病棟】</p> <ol style="list-style-type: none"> 小児期における健康障害をもつ対象(重症心身障がい児)を理解し、安全な児の療養環境が 整えられる。 小児期における対象(重症心身障がい児)の健康状態および成長発達に応じた援助を理解でき る。 小児看護における特有な看護技術が理解できる。 小児期における対象に看護者としての基本姿勢がとれる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：小児看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
母性看護学実習	2（90）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>リプロダクティブヘルス・ライツの視点から女性のライフサイクル各期にある対象と家族を理解し、健康な経過を保持・増進するための基本的な看護を実践する能力を養う。</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期にある対象の理解と援助の実際が理解できる。 2. 分娩期にある対象の理解と援助の実際が理解できる。 3. 産褥期にある対象の理解と援助の実際が理解できる。 4. 新生児の特徴を理解し健康を保持増進するための援助が理解できる。 5. 地域における母子と家族に対するサポートシステムについて考察できる。 6. 母性看護領域における看護師の役割と責任について学ぶ。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：母性看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
精神看護学実習	2（90）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
精神障害をもつ対象への看護を実践する能力を養う。				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害をもつ対象が理解できる。 2. 対象との関わりの技法が活用できる。 3. 対象との関わりの中で生じた自己や対象の感情・思考を振り返り、関係が考察できる。 4. 精神に障害をもつ対象の日常生活の援助が理解できる。 5. 対象の安全や権利を守るための管理上の特徴が理解できる。 6. 精神に障害を持つ対象が地域で生活するための支援が理解できる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：精神看護学概論・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
統合看護実習Ⅰ	1（45）	3	第1学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>地域で暮らす対象とその家族を理解し、対象の暮らしに応じた援助を実践する能力を養い、多職種と協働する中での看護の役割を理解する。地域で暮らす人々の健康の保持・増進への保健活動を学ぶ</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 入退院支援センターを活用する対象の特徴が理解できる。 2. 入退院支援センターを活用する対象に行われている支援の実際が理解できる。 3. 療養の場を移行する対象に必要な支援が理解できる。 4. 施設内および地域における対象に必要な保健・医療・福祉との連携・協働について理解できる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：すべての概論科目・基礎看護学実習Ⅲ			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
統合看護実習Ⅱ	1（45）	3	第2学期	各実習施設担当者
実習目的				
<p>対象を総合的にとらえ、対象に応じて安全・安楽な看護が実践できるよう、知識・技術を統合し、主体的に自らの役割と機能を発揮して働きかける能力を養う。</p>				
実習目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の患者を受け持ち、優先順位・時間管理を考慮して、安全・安楽な看護が実践できる。 2. 看護管理の実際について、理解することができる。 3. 1日を通しての患者の状態の変化や看護の役割を理解することができる。 4. 看護チームの一員としての役割を体験し、チームマネジメントの実際が理解できる。 5. 統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にできる。 				
授業形態	実習			
評価方法	看護実践・実習記録・カンファレンス・態度・出席状況 100点 履修規程の第11条、第12条および第13条に定めるとおりとする			
備考	先修条件：すべての概論科目・基礎看護学実習Ⅲ			

